

【参考】

月下獨酌 四首其一 · 李白

花間一壺酒

かかん いっこ
花間一壺の酒

獨酌無相親

ひと く
ひとり酌んで相親しむ無し

舉杯邀明月

さかずき
杯を挙げて明月を邀え

對影成三人

影に對して三人と成る

月既不解飲

すで いん かい
月既に飲を解せず

影徒隨我身

いたず
影徒らに我が身に隨う

暫伴月將影

しばら
暫く月と影を伴いて

行樂須及春

すべか
行樂須らく春に及ぶべし

我歌月徘徊

はいかい
我歌えば月徘徊し

我舞影凌亂

りょうらん
我舞えば影凌亂す

醒時同交歡

せいじ とも
醒時は同に交歡し

醉後各分散

すいご おのおのぶんさん
酔後は各分散す

永結無情遊

永く無情の遊を結び

相期邈雲漢

あいき ほんか
相期して雲漢邈なり

春の夜咲におう、花の中で一壺の酒をかかえ、お互いに語り合う親しい人も居ないので一人で酒を酌んだ。

そこで、杯をたかくあげて、のぼってきた明月を迎え、これ、月と我とわが影と三人となった。

しかし。月はもともと酒を飲むことができないうし、影は影で、ただ我が身につつき従うばかりでつまらない。

まあしばらくはこのヤボな友の月と影とをつれにして、春のよき季節をのがさずに楽しみを尽くしておこう。

私が歌うと月はふらふらと天上をさまよひ、私が舞うと影も地上で乱れ動く。

さめている時には、我ら三人は喜びを楽しみ合うが、酔ってひとり寝た後は、それぞれ別れ別れになってしまう。

いつまでも、世俗を離れた交遊を結ぼうと、はるかな天の川で再会を約束する。